

ご案内

墨田区では平和への願いを込めた行事や講座、展示会を行います。

震災と戦災という2度の大禍を経験した墨田区は、平成元年に「墨田区平和福祉都市づくり宣言」を行い、国内外の平和の実現に向けて努力することを誓いました。

区では、この宣言の趣旨の実現に向けて、毎年3月に平和祈念行事を開催しています。

この行事では、たくさんの方から寄せられた平和への誓いと祈りが込められた「折り鶴」で制作した「平和のオブジェ」や思いを綴った「平和メッセージ」を展示し、区民の皆さんと共に、平和への思いを形にしています。今までに墨田区ゆかりの著名人として、「つながり」2号の1面を飾った「あしたのジョー」の作者の一人である、ちばてつや氏もメッセージを寄稿してくださっています。

また、すみだ郷土文化資料館では、東京空襲の体験者が自らの体験を描いた絵画を展示し、絵の前では、戦争の悲惨さや平和の大切さについて語るギャラリートークとコンサートを開催します。さらに、2月23日から開催される企画展に合わせて、すみだ生涯学習センターでは、すみだ地域学セミナー特別講座「東京大空襲と隅田川」を開催します。こちらの講座については本紙3頁に記載の「講座のご案内」をご参照ください。

平和祈念行事「27万人の平和メッセージ」

▶「平和のオブジェ」完成披露と平和祈念コンサート

【演奏】新日本フィルハーモニー交響楽団

【日時】3月8日(金)
12:00~13:00

【会場】区役所1階アトリウム

※「平和のオブジェ」は約1年間展示されます。



平成29年度 平和のオブジェ「平和が達成されるように〜平成〜」

▶平和メッセージ展

【日時】3月8日(金)~24日(日)
8:30~21:00

【会場】区役所1階アトリウム

【参加方法】期間中、直接会場にお越しください。(参加費無料)

【問合せ】文化芸術振興課文化行事担当(区役所14階)
MAIL:BUNKASHINKOU@city.sumida.lg.jp
TEL:03-5608-6181

すみだ郷土文化資料館

▶常設展示「東京空襲体験画展」

開催中

【会場】2階展示室

▶企画展「東京大空襲—罹災者・救護者・戦争遺跡—」

2月23日(土)~4月14日(日)

【会場】3階展示室

▶イベント「空襲体験画ギャラリートークと平和祈念コンサート」

3月10日(日)11:00~13:00

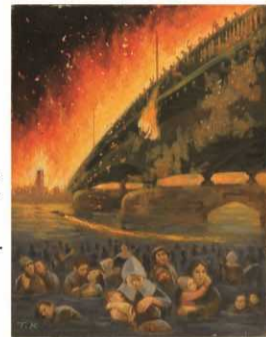
【会場】2階展示室

【開館時間】9:00~17:00
(入館は16:30まで)

【入館料】100円

※イベントも入館料のみでご覧いただけます。(先着40名)

【問合せ】すみだ郷土文化資料館
墨田区向島2-3-5
TEL:03-5619-7034



狩野光男 画「言問橋炎上」

ご参加
ありがとうございました

出会う・集う・知る・学ぶ

すみだ生涯学習センター 講座レポート

12月4日・10日 全2回 実施

東京2020公認プログラム オリンピック・パラリンピックを知る基礎講座 意義編

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を1年半後に控えた12月、首都大学東京オープンユニバーシティ特任教授の舩本直文氏をお招きし、本講座を実施しました。

1回目は、2020年の大会後に私たちが残すべきレガシー(遺産)は何かといった問いかけをもらいました。インフラ整備や競技施設などのハードなレガシーに対して、スポーツ・芸術文化・環境など各分野のソフトなレガシー、その中でもヒューマンレガシーと呼ばれる分野は私たちでも関与することが可能です。東京都の2020年に向けた取り組みなども解説いただき、大会を機にスポーツの持つ力で社会を変えるきっかけをつかむヒントとなる講演でした。

また、2回目の実施となった12月10日は国連人権デー当日ということもあり、スポーツを通じた人々の尊厳の保持など、オリンピック憲章におけるオリンピズムの根本原則、友情、連帯、フェアプレーの精神と共に相互理解など、他者を尊敬する理念について講演いただきました。

普段、大会開催の経済効果やメダル獲得のニュースが多く報道されるオリンピックを、違う側面で見るとの講演に、来る2020年東京大会で私たちが地域住民として、どのように関わっていくことが出来るのか考える機会をもらったのではないかと思います。



12月15日 実施

東京2020公認プログラム オリンピック・パラリンピックに向けたおもてなしコミュニケーション講座

本講座は山田千穂子氏をお招きし、すみだを訪れる、様々な言語や習慣を持つ方と外国語に頼らないコミュニケーション力向上をめざして、訪れた人から「またすみだにきたい」と思っていたいただくための「おもてなし力」について話していただきました。

海外の方をおもてなしする際、言語だけでなく、ジェスチャーや態度、表情などの非言語コミュニケーションを確実に行うことがポイントで、それだけでもおもてなしの心が相手に伝わるとのこと。講座の後半では、受講者の皆さんで、ご自身のおもてなし実践例や、本講座を受けてひらめいた、おもてなしのアイデアを意見交換していただき、新しい発見をした方もいらしたようです。最後に受講者の方からは「日常生活でも出来るおもてなしの心が理解できた。」といった感想もいただきました。



11月11日・18日、12月8日 実施

ボランティア養成講座

そもそも地域の中で活躍するボランティアとは何だろう。答えは一つではない難しい問いに、自らのやりがいを見出さるため、社会情報大学院大学で客員教授としてコミュニティ(地域共同体)や組織の新しい可能性を教えるという坂本文武氏をお招きし、ボランティア活動を通してより豊かな人生を送るための発想やそのための方法について講演いただきました。

ボランティアは、社会を構成する重要な要素であり、行政が提供する公助とは対照的に、多様化する地域のニーズに応えることのできる共助であること、その共助が地域力を高

めることが出来る方法の一つでもあることなど、様々なボランティアの在り方について教えていただきました。講座の中で、受講者がグループに分かれ、それぞれの住んでいる地域の課題と思う点や、その解決方法を考える時間もあり、活発な意見交換が行われ、充実した講座となりました。学びとしてのボランティア、他の人の学びを手伝い、他者の多様な視点を受入れ自身も成長の糧とする、参加された皆さんには、そんな意識をもっていただけたのではないかと思います。

